

# 羽曳が丘 憲法九条の会 ニュース

第 8 号  
2008年4月 発行  
連絡先 林 正敏  
Tel 956-0596  
URL <http://habikigaoka.9jou.info/>

## 戦争は人の命をうばうこと

## ぎせい者は私たちだけにして

### 若い人たちに戦争の真相を語りつぎましょう

二月十一日モモプラザで羽曳が丘憲法九条の会第4回のつどいを開きました。今回のつどいには、羽曳が丘にお住まいで、戦争中大阪市内に住んでいて戦争を体験された二人の女性に当時経験されたことを語っていただきました。

### 第一回大阪大空襲襲

#### — Aさんの話 —

私は大阪の真ん中、今の新歌舞伎座の近くに住んでいました。その新歌舞伎座のそばに新川というきれいな川が流れていました。よくトンボ捕りなどして遊んでいました。今は埋め立てられ阪神高速道路の高架下になっていますが。

昭和二十(1945)年、私は八歳でした。三月十三日夜空襲警報が鳴りました。家の床下にはお父さんが作った自慢の防空壕がありました。その日のおばあちゃん、いつもと違う。こんな狭いところにおいたらあかん。と言った。私の腕を引っ張って外に出ました。新川の近くでは「ここに爆弾が落ちたらダメや。」と言って川を渡り、上六の方に向かって逃げました。市電が走っている道路の歩道には100メートルぐらいの間隔で防空壕が作られていました。上六の方は真っ暗で

ごい風が起こるんですね。みんな逃げる時家にある大事なものを持ち出したりしていたのですが、その強い風にみんな吹き飛ばされてしまいました。「手、放したらあかん。」と言うおばあちゃんに必死にくっついて逃げました。

### 今になって鮮やかに蘇ってくる



お母さんと下の弟妹は田舎に疎開していました。お父さんは隣組で家から一人、町の警備に出なければいけないということになって出かけていました。逃げていた途中で、お父さんが高島屋の前の疎開地(当時は火事が起こった際、類焼を避けるために建物を壊して作っていた空き地のこと)で私たちを捜しているということを知りました。やっとたどりついてお父さんと再会できました。疲れ果てていたのと怖さで、そこに積み上げてあった布団の中で寝てしまいました。

後で分かったことですが、防空壕に入っていた人たちの多くは蒸し焼き状態で死んでいたということでした。私も、おばあちゃんがいってくれていなかったらどうなっていたか分かりません。また不思議なことに今頃になってあの大空襲の中を必死になつて逃げまどったことが鮮やかに蘇ってくるのです。子どもの時に体験した怖い思いは一生消えないんやな、とつくづく思います。

### 28歳で死んだ母も戦争の犠牲者

それと若くして亡くなったお母さんのことです。私を頭に四人の子どもを産みました。空襲のあった時には体が弱いからといって下の三人の弟妹を連れて兵庫県の三田に疎開してしまいました。でも風邪を引いたからといって飲む薬もありませんでした。手当てらしい手当ても受けることができないまま亡くなってしまいました。死んだのは二十八歳の時でした。戦争がなかったら死ななくてよかったはずですが、そう思うと、お母さんも戦争の犠牲者の一人だったんですね。そう考えると、戦争は絶対イヤです。戦争を知っている一人として、子や孫に戦争のことを伝えてやらんとあかんと思います。

### 学童疎開と女学校時代

#### — Bさんの話 —

### 学童疎開は未来の兵士を残すため

私は大阪市の此花区に住んでいました。私は六年生の時、学童疎開で愛媛県西条市に行くことになりました。学童疎開は、未来の兵士を残すために否応なしに行われました。当時此花区は大阪市の僻地と言われるほどで電車も通っていませんでした。

### 食べるものがなく、みな餓鬼に

三年生以上が集団疎開しました。初めのうちはうかれていますが、そのうちだんだんと親が恋しくなり、ひもじさも増し、いじめも起こるようになります。終わりがろは、主食はおいも一つ、おやつはみかん一つというありさまで、ひもじくてひもじくてしかたありませんでした。見るもの何でも食べ物に見えませんでした。みかんはすじも皮も焼いて食べました。配られるお

いももどれが自分のところにくるか大きさを比べる目は本当にギラギラしていました。餓鬼になっていました。風呂は月1回しか入れませんでした。身体じゅうにしらみが住み着き、夜になると活動が活発になり、寝ながらバリバリかきむしりました。その傷跡が膿むと余計にしらみは繁殖しまし

(裏面に続く)



### 死んだまあ坊も戦争の犠牲者

た。女の子は初めのうちは酔で頭を拭いてもらったりしていましたが、それも追いつかなくなると丸刈りにされました。

三年生だった元気のよいまあ坊がカニを食べたらしくくて激しい下痢をおこしました。日に日に元気をなくしていききました。約1カ月後、先生たちが暗い顔をしていました。私たちには知らされなかったのですが、雰囲気から分かりました。「あの元

気なまあ坊が死んでしまった。」ショックは大きかったです。大阪から駆けつけたお母さんが一晩中わが子の名を呼びながら泣き続けていたと後で聞きました。この9歳の男の子も、実際戦地で戦っていないけど戦争の犠牲者ですよ。

### 弁当箱の中はかゆの米粒ばかり

私は女学校に通うことになりました。2両の電車は中学生と女学生で満員で、立っているのが耐えられなくてよく気絶しました。気を失う時つとでも気が持ちがよくなるんです。気を失っても満員なので倒れないんです。富田林西口駅に着いてみんなが降り始めて倒れるんです。遠くで私を呼ぶ声が聞こえてきて気がつくんです。「何やねん、この子。気絶ばかりして、こんなんやったら学校来んといたらええやなあ」という先生のことばがときささりました。

学校では草刈や松やに取りばかりでした。貧血で頭はガンガン痛むけれど葉はありません。田舎から来ている生徒はご飯の弁当を持ってきていましたが、私の弁当はお母さんがおかゆからすくってくれた米粒の入った弁当でした。すると音がします。「今音を立てたのはだれか、女子たるもの食事に音を立てる

とは何事か」と先生が叱ります。その度にみんなの視線が私に向けられます。風呂にも入っていないかつたからくさかつたんでしよう。「この子のそばに寄つたら臭いで」と言われました。でも、そのことをお母さんには言えませんでした。家族は米粒をすくつた残りのかゆを食べているのですから。

私が貧しくても勉強して力をつけることができたのは、こうした辛い体験があったからかもしれない。戦争の悲惨さ、むごさを体験した者の一人として、若い人たちに伝えていく責任があると思います。戦争を体験した人が高齢化し、少なくなっていく中で、「戦争は本当に命を無くすことなのだ。だから戦争は絶対にしてはならない。そのためには、宝物である日本国憲法を変えてはならない。」ということを語っていかなくてはならないと思っています。

## 満開の桜の下の花見会

晴天に恵まれた四月六日、羽曳が丘北公園(第一集会所横)でお花見会を楽しみました。

ひらひらと花びらが舞い散る下で談笑する参加者からは「平和だからこうして花見も楽しめる。」「自分の子ども時代は食べ物もろくになかった。孫たちにそんな経験は絶対させたくない。」といった声が聞かれました。

参加者は平和の大切さをかみしめながら憲法9条を守る決意を固めました。



第33回はびきの市民フェスティバルに  
**羽曳野9条の会**  
として参加します

5月5日(こどもの日)  
9:00~16:00  
峰塚公園(LICはびきの南)

毎年5万人以上の市民が参加して開かれる市民フェスティバル、今年は完成したての峰塚公園を会場に行われます。この大きなイベントに市内6つの地域の9条の会が共同で一つのお店を出すことにしました。羽曳が丘憲法九条の会からは缶バッジやストラップ、シールなどの9条グッズを販売する予定です。

羽曳が丘地域の皆さん、是非、のぞいてください。

**9条世界会議in関西**  
に参加しましょう

2008年5月6日(火・祝)  
午前10時~午後4時30分(予定)  
舞洲アリーナ  
(JR桜島駅よりシャトルバス運行予定)

参加協力券/一般: 1,000円 大学・専門学校生: 500円  
高校生以下: 無料 介助者: 無料

「戦争をしない。武器を持たない。武力によらない平和」をめざす動きが世界中に広がっています。今年5月4・5日は千葉・幕張メッセにノーベル平和賞受賞者を含む世界の知識人や文化人、平和NGOの運動家などたくさんの方が集います。そして、5月6日には大阪・舞洲で関西の集会在開かれます。この集会には、日本国憲法第14条(法の下での平等)や第24条(男女平等)を起草したベアテ・シロタ・ゴードンさんや元国連イラク人道調査官のハンス・フォン・シュポネクさん、元米陸軍大佐で反戦・平和運動家のメアリー・アン・ライトさんが参加します。この集会を成功させ、平和を世界に発信しましょう。

**市民100人ミュージカル**  
**ロラ・マジン物語**

かつて日本軍の占領下にあったフィリピン。そこで13歳で慰安婦にされた少女。日本の敗戦とともに解放されても少女の戦争は終わっていない。お母さんの形見のミシンと叔父さんの子どもたちが彼女に生きる力を。この物語を100人以上の市民の参加してミュージカルで演じる。

「すべての人と自然と共生し、生きていくこと、人間の尊厳、平和」  
最後のメッセージを言葉と音楽から表現し、心を揺さぶる。私たちの未来を、みんなの力で描いていこう。

この近くでの公演 **15時開場**  
**5/3(土・祝) 16時開演**  
**リビエール・ホール(柏原)**  
入場料/一般: 2,500円 高大学生: 2,000円 小中学生・障害者: 1,500円  
前売券: 事務局にあります。